

生き活きの素

3

「意欲」と「機能」を引き出す介助

「立つ」「座る」「移動する」といった
ご利用者様の生活行為への「意欲」と「機能」を
介助を通して引き出します。

ご利用者様の中には、高齢で足腰が思うように動かなくなった方や、脳卒中などの後遺症により車いすを利用されている方もおられます。こうした方々の「立つ」「移動する」「座る」といった動作に対して、私たちはまず、「お風呂に入りたい」「水を飲みたい」「ゲームに参加したい」というように、生活行為そのものへの「意欲」を持っていただけるようアプローチします。その上で、「立つ」「座る」「移動する」といった動作の中にある、生理学的な動きを引き出すことを心がけています。生活の中の身体の動きを考えた介助は、ご利用者様の「自分で立つ」「自分で座る」といった意欲と機能も引き出すのです。



車いすが回転できる十分な広さと
「立つ」「移動」「座る」行為を引き
出す前手すりが設置されているト
イレ。



生き活きの素

4

「リハビリデザイン」という設備と用具

イスやテーブルの高さ、手すりの位置まで、
ご利用者様1人ひとりの
「身体機能」を引き出す工夫があります。

デイサービス響やグループホーム響に設置されているテーブルやイスに注目してください。座面の色が赤、黄、緑と3種類のイスがありますが、色の違いは、イスの高さの違いを表しています。座面までの高さ38cmが赤色、40cmが黄色、42cmが緑色の座面となっています。イスの高さに合わせてテーブルも3種類となります。なぜ、そこまで高さにこだわるのでしょうか。その理由は、ご利用者様の座ったときの姿勢にあります。イスに座ったときに膝の角度が90度となること。食事のときに適度な前傾姿勢が取れることが重要です。ご利用者様1人ひとりの身体に合ったイスに座ってもらうことから、私たちの介護はスタートします。



最適な姿勢を引き出す
3種類の高さのイスと
テーブル。

